

# CASBEE あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BC\_NC\_2016(v3.0)\_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東精エンジニアリング名古屋工場	階数	地上2階
建設地	愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字東諸輪4番 他50番	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	300人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年2月13日
敷地面積	35,888 m <sup>2</sup>	作成者	加藤翼
建築面積	6,621 m <sup>2</sup>	確認日	2024年2月13日
延床面積	13,015 m <sup>2</sup>	確認者	加藤翼



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 80%

③上記+②以外の 80%

④上記+ 80%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.8

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

3.7

#### ③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

32.5 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

#### ②資源の有効活用

3.3

#### ④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3.1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性  
LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

あいちの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 ((仮称)東精エンジニアリング名古屋工場)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	-
3 ソーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口				3.0	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	-
3 ハリアフリー計画		独自		3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	3.2	0.52	-	-	-	3.2
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.7	0.33	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	外壁にガルバリウム鋼板を採用している。	-	3.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			耐久性の高い内装材を採用している。	-	5.0	0.23	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	5.0	0.09	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔			主要な用途上位3種の、2種以上にC以上を使用	-	4.0	0.15	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備		②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-

<b>3 対応性・更新性</b>			0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
<b>3.1 空間のゆとり</b>			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	-	0.57	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	-	-	3.6
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	-	0.30	-	-	-	3.2
<b>1 水資源保護</b>			0.1	3.6	0.15	-	-	-	3.6
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.3	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	4.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			-	4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率80%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			0.3	3.3	0.33	-	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

【仮称】東海エンジニアリング名古屋工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.7</b>
LR3-1 地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.3</b>
Q2-2 耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3 対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>3.0</b>
Q3-1 生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:32.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
	(評価ポイント)		
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)東精エンジニアリング名古屋工場

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東郷町に新築される工場兼事務所である。</li> <li>・高効率な設備機器の採用等により、CO2削減にも積極的に取り組む計画となっている。</li> </ul>
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象外。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりを持った計画としている。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地内緑化により、地表面温度の上昇を抑制する計画としている。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。</li> </ul>
その他	